



「フロアボールに夢中です」と下山さん

輝いています

女子世界フロアボール選手権大会2023 9位

ひと

しもやま ももか さん
下山 桃佳 さん

世界で戦うフロアボール

室

内ホッケーとも呼ばれるフロアボールは6人対6人で得点を競う団体球技です。蔵フロアボールクラブ所属の下山桃佳さん(22歳・中央4丁目)は、昨年12月にシンガポールで行われた2年に1度の女子世界フロアボール選手権大会で、日本代表として第9位の成績を残しました。小学3年生でフロアボールに似たネオホッケーを始めた下山さん。中学生からはフロアボールも始め、攻守の切り替えが早くスピード感のある競技のとりこになります。全国レベルのチームで力をつけると、高校生で日本代表のフォワードとして2度の世界大会に出場します。「次も代表で

活躍を」と意気込んでいた矢先、コロナ禍になり、日本は前回大会の出場を辞退。先が見えない状態でしたが、「この競技が大好き。今できることをしよう」と、男子相手の練習や苦手なランメニューなどを黙々と続けてきました。アジア・オセアニア予選を首位で突破し、迎えた今大会。下山さんは、フィジカルの強さやシュートブロックの技術を買われ、ディフェンスで起用されます。代表としては初のポジションで不安もありましたが、チームのために役割を果たします。世界の選手の強い当たりにも負けず、体を張ってゴールを死守。下山さんが出場した守備重視のセットは、ベスト8をかけて戦ったラトビア戦以外を無失点に抑え、結果、チームは前回大会の13位を上回る9位という成績を収めました。今後の目標は、経験を重ねて、あらゆる場面にも対応できる思考力を鍛え、自分でゲームを動かせる選手になること。「プレーでも精神面でも、チームを引っ張っていきたいです」と語る下山さん。これからも世界に向かって走り続けていくことでしょう。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蔵にあり

—No.94—



暁斎筆「美人を驚かす内裏雛」軸装

本図は暁斎の娘の暁翠が描いた作品です。晴着を着た若い娘が驚いた表情で尻餅をついています。娘の視線の先を見ると、お内裏様とお雛様が雛壇から降りて、飲んだり食べたりしてくつろいでいたようです。ご機嫌になったお内裏様が娘に向かって「あかんべ」をし、犬笛を抱いたお雛様は

その様子を見て大きな口を開けて笑っています。穏やかな人柄だったという暁翠ならではの温かく品のよい戯画で、麗らかな春の陽気まで漂ってきそうです。



現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ ますあさ
河鍋 暁斎
天保2年(1831)
～明治22年(1889)

河鍋暁斎記念美術館 開催中

企画展『「暁斎楽画」シリーズから150年

暁斎・暁翠 戯画・風刺画の系譜展

同時開催 特別展「日本初のマンガ雑誌『絵新聞 日本地』の世界」展

開館 = 午前10時～午後4時

ところ = 南町4-36-4

休館 = 火・木曜日、26日～末日

入館料 = 一般600円 高校生・大学生500円

小・中学生300円 65歳以上500円

※65歳以上は年齢の分かる物、学生は学生証のご提示を

詳細 = 同館 ☎441・9780



詳しい内容は館ホームページをご覧ください

